

(1) 防災・減災教育（例）

それぞれの就学前施設の実態に応じて計画し、組織全体で実践を行っていきます。

「子どもの安全を守るための防災・減災指導の手引き」より抜粋

<日常生活等と関連した展開例>

5歳 「日常生活の中で安全（防災）に関する意識や態度を高める指導」

主な活動 ドッジボールをする

保育の目標

- ・自分の体を自分の思うように動かして遊ぶ。
- ・ルールを理解し、周囲の状況に応じて素早く動く。
- ・自分の思いを言葉で相手に伝えるように話す。
- ・周りにある物や人の動きを感じ、安全に行動しようとする。

みんながなかよく、楽しく遊ぶためには、どうしたらいいかな。

- ・ルールをまもる。
- ・友達がこまることはしない。

園庭でドッジボールをするときに、あぶないことはどんなことがあるかな。

- ・ドッジボールをしているところに、小さい組さんがきたら、ボールを投げないようにする。
- ・広いところで遊ぶようにする。

【防災教育の視点】

- ・安全な遊び方のルールを知り、危険を回避できるように考える。
- ・ボールを投げたり、よけたり、うけたりすることで、自分の体のバランスを考えて動く。
- ・友だちの動き、ボールの動き等に対応して自分も動く。
- ・周囲の友だちの遊びや動きを見ながら、場を選んだり、状況を考えたりして遊ぶ。

<防災・減災教育（避難訓練を含む）実践事例>

1. 対象・・・幼稚園

2. 指導計画作成にあたっての留意点

幼児期の発達に合わせて、恐怖心をもたせることのないように配慮し、幼児一人一人が落ち着いて安全に行動できるように、具体的な行動の仕方を理解させるように工夫する。

3. 目標

- 地震のときに起こりうる事態を具体的に知り、どのようにしたらよいかを知る。
- 大人の指示をしっかり聞き、行動できるようにする。
- 危険な状態を発見したときは、身近な大人に速やかに伝えることができるようにする。

4. 関連領域 健康、人間関係、環境、言葉

5. 指導計画（指導の流れ）

幼児の主な活動	援助及び指導上の留意点
1.命の大切さ、友達と仲良く遊ぶ楽しさなどを話し合う ○自然の大きさ、美しさ、不思議さ。 ○友達と楽しく生活したこと。 ○身近な動植物とのふれあい体験による、生命の尊さへの気づき。	・日頃の保育活動の中で、十分に体験させておくことが大切である。
2.地震が起こったらどうなるの ○地震について知っていることを話し合う。 ○地震についての話を聞く。	・経験したことやテレビで見たことをもとに話し合うようにする。 ・恐怖心を与えないようにする。 ・絵本や紙芝居、ビデオなど発達段階にあった資料を活用する。
3.地震が起こったらどうしたらいいの ○保育室や園庭など園内の危険な箇所について考える。 ・落下物・転倒の危険 ・倒壊の危険 等 ○避難の仕方を考える。 ・一時退避場所、方法 ・避難経路・避難の時の態度 ・危険な状況を見つけた時の対応 等	・様々な危険について、具体的に確認しながら考えるようにする。 ・保育室、園庭、遊戯室などそれぞれで具体的にしてみるようにする。 ・落下物などに気を付け、頭を保護するようにする。 ・指示を聞くことが大切だと知らせる。 ・落ち着いて行動することが大切であることを知らせる。
4.家の人とも話してみよう	・防災指導をした日は、お迎えのときなどに、内容を保護者に伝え、家でも子どもの話を聞き、話し合っ、地震が起こったときにどうしたらいいか考えてもらう。

(2) 安全教育の実践(例)

火事や地震等を想定した避難訓練や交通安全指導等を通して、組織全体で子どもの命を守り、また、子ども自身が安全に対する意識を高めていくことが大切です。毎日の生活の中で、しっかり体を動かし、機敏に動いたり、話をよく聞いたりするなどの態度も育てていく必要があります。

日常生活の中で身の守り方を知らせる 対象：0～2歳児

<ねらい>○地震発生時の身の守り方を知る。

<活動>○落下物や危険物から身を守り、怖がらず落ち着いて避難する。

<保育者の働きかけ>

- ・子どもが安心できるように、気持ちを受け止めながら、落ち着いて、ゆっくり話しかけ、保育者との信頼関係の中で安心して活動できるようにする。
- ・身を守る姿勢がとれるように、保育者が動きのモデルとなる。
- ・「机の下にかくれんぼ」「ダンゴムシのように丸くなってみよう」など、避難時に必要な行動と言葉を結び付けておく。

<その他>

- ・日頃からリズム活動を楽しみながら、ダンゴムシのポーズをしたり、机の下に隠れたりして身を守る姿勢を知らせる。
- ・日頃から様々な時間帯や状況下で訓練を行うことで、実際に地震が起こったときの子どもの姿が予測できるようにしておく。
- ・日頃から避難車に乗る経験をして、慣れておく。



リラックスした雰囲気から



「ダンゴムシ」の姿勢をとる



日頃から避難車に慣れておく

避難訓練(想定：地震・津波) 対象：0～2歳児(職員)

<ねらい>○地震発生時に乳幼児の身を守り、安全に避難する。

<活動>○落下物や危険物に注意し、落ち着いて避難する。

<保育者の働きかけ>

- ・子どもが安心できるように、気持ちを受け止めながら、落ち着いて、ゆっくり話しかける。
- ・頭上や周りに落下物や危険物がない場所を確認した上で指示を出す。
- ・身を守る姿勢がとれるように保育者が、動きのモデルとなりながら、日常の安全指導で用いる「ダンゴムシになろう」など分かりやすい言葉で動きを示す。
- ・0～1歳児の中で、自分で移動できない子どもには、保育者が布団やマットを被せ落下物から身を守るようにする。
- ・2歳児で歩いて避難する場合、幼児クラスや事務職員等も応援に行き、必ず子どもと手をつなぐ。
- ・津波を想定し、避難車に乗せて、高所避難場所に誘導する。

<その他>

- ・雨天時なども想定して避難の方法を工夫する。



緊急時は、できる限り乳児クラスの応援に入る



素早くマットや布団を被せ身を守る



雨天を想定しての訓練も実施する



おんぶひもでの移動も経験しておく

避難訓練（想定：地震・津波） 対象：3～5 歳児

<ねらい>○災害発生時の行動の仕方や避難場所について知る。

<活 動>○大阪 880 万人訓練を活用した避難訓練に参加する。

○津波を想定して二次避難場所に移動し、高所に避難する。

<指導者の働きかけ>

- ・事前に避難場所である小学校の施設に関心をもつことができるようにする。
- ・日頃から災害避難訓練を園所で行い、災害時の行動について知らせる。
- ・高所に避難できる経路に、迅速に誘導する。
- ・指導者の話を聞き、自分自身の安全について考え、約束を守って行動できるようにする。

<その他>

- ・指導者の傍から離れない、「お・は・し・も」（*注）の約束等、基本的な約束について繰り返し確認する。
- ・引き渡し訓練を行い、保護者と連絡方法を確認する。
- ・非常持ち出し袋の中身や置き場、避難場所への経路等を定期的に確認、点検する。
- ・緊急地震速報のチャイムを知っておく。
- ・防災頭巾のかぶり方を知り、慣れておく。また、防災頭巾を被って避難場所へ移動する経験をし、見え方や聞こえ方の変化を知らせておく。
- ・頭を守ることや必ず靴を履いて逃げるなど、訓練等を通して知らせる。
- ・保護者への引き渡し訓練を行うなど、保護者との連携に努め、連絡体制や引き渡し方法等について事前に情報を共有しておく。

*注 「お・は・し・も」 押さない、走らない、しゃべらない、もどらない



保護者への引き渡し訓練



防災頭巾を被って地域を歩く



いす等で頭を守る姿勢をとる



安全に加工されたプラスチックの上を歩き、
感触から靴の大切さを知る

避難訓練（想定：不審者侵入） 対象：3～5 歳児

<ねらい>○不審者が侵入した時の避難の仕方を知る。

○知らない人について行かない約束をする。

<活 動>○訪問者を装って園内に侵入した不審者から素早く離れ、室内に避難する。

<指導者の働きかけ>

- ・訓練であることを事前に知らせ、むやみに怖がらせることなく避難できるようにする。
- ・集会等の活動に誘いかけるようにして「遊戯室」や「〇〇組」等、集合場所を明確にして、速やかに子どもを引率する。
- ・子どもが怖がらないように、落ち着いた声で指示を出す。
- ・窓のある部屋では、声を出さず、身を低くするように知らせる。

<その他>

- ・不審者が侵入したことを知らせる合言葉や音楽を決めておく。
- ・警察署や区役所の安全パトロール等、関係諸機関と連携した防犯訓練を行い、不審者侵入時の対応や連絡体制等、情報を共有しておく。
- ・「いかのおすし」（※注）の約束を日頃から確認しておく。

※注「いかのおすし」・・・行かない、乗らない、大声を出す、すぐに逃げる、知らせる。

警察や区役所と連携した防犯訓練



窓よりも低くなって身を守る姿勢をとる



交通安全指導 対象：3～5歳児

<ねらい>○道路の安全な歩き方や交通ルールを知り、守る。

<活動>○人形劇を通して、危険な行為や安全な歩き方について知る。

○模擬横断歩道や信号を使った、歩行体験をする。

<指導者の働きかけ>

- ・安全な横断の仕方が分かるよう実際に歩行し、横断歩道や信号、標識や表示の意味を知らせる。
- ・歩行体験を通して、曲がり角や交差点の前で立ち止まり、左右を確認すること、信号をよく見て行動できるように知らせる。
- ・人形劇や指導者の話を通して、飛び出しや信号、横断歩道のない場所での横断は危険であることに気付くようにする。
- ・クイズ等を通して、問いかけに答えながら、正しい交通ルールについて考えられるようにする。

<その他>

- ・警察署や区役所と連携した交通安全教室を通して、地域の実態や事故の傾向についても把握する。
- ・保護者と連携した登園所の交通安全指導に生かす。
- ・後日、園所庭で雨具を着けての歩行体験を行い、視野の狭さや動きにくさに気を付けるように促す。



交通ルールについての人形劇を見る



信号や標識の見方を知り、横断歩道を渡る



傘の安全な扱い方を知る



雨の日に、雨具を身に着けて歩き、視野の狭さを体験する